

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第21集

（長野県道 1 号線～508 号線）

NO.141 古川（岐阜）に古い町並みと祭り会館を見に行った

NO.142 天竜峡の桜と県道 83 号線(下條村.阿南町.泰阜村.喬木村.飯田市)

(長野県道 83 号走破)

NO.143 中川村から七久保（飯島町）まで

(長野県道 218 号走破) (長野県道 219 号走破) (長野県道 220 号走破)

NO.144 富士見町散策をして、最後に新旧の立場川橋梁を撮る

(長野県道 189 号走破) (長野県道 190 号走破) (長野県道 198 号走破)

NO.145 松本から大町に行くには、4 本の道があるよ

(長野県道 306 号旧道走破) (長野県道 306 号新道走破)

NO.146 小説「安曇野」の穂高・堀金を散策

(長野県道 307 号) (長野県道 308 号走破) (長野県道 309 号走破) (長野県道 432 号走破)

NO.147 祭りが松本地域にもいろいろあります

2025.3.25 自宅を 11 時頃出発。波田小学校前交差点で国道 158 号線に入り（自宅から 15 分）、岐阜県を目指しました。新島々駅を過ぎて少し行くと、梓川に橋を架ける工事を初めて見た。長い長い間通行止めの区間があった部分（崖沿い）をあきらめて、橋でつなぐと見た。島々の谷に入り、進んで行くと最初のトンネルに入り、トンネルを抜け稲核ダムまでは、谷が狭く洞門もあり曲がりくねった道である、ここにトンネルを空けているが、進行状況は見る事が出来なかった。このトンネル工事よりも、かなり前から工事をしている水殿ダムから奈川渡ダムまでの工事は、奈川渡ダム手前にある現役のトンネルを利用してつなげる雰囲気工事が始まっていた。奈川渡ダムを渡り、沢渡を過ぎ釜トンネルに工事用ダンプが入って行くのを見ながら安房トンネル（有料¥790）を通り（57 分経過）平湯トンネルから高山方面に向かった。下りの途中に「赤かぶの里」があり、いつもやっていないように見えたので通り過ぎていたが、今回はなんとなくやっていそうな雰囲気があったので通り過ぎてから戻って、久しぶりに入店し買い物をした。「赤かぶの里」を過ぎて少し行くと下りもカーブも緩やかになる。町方の交差点を直進し、国道 158 号線と別れすぐに左折し岐阜県道 458 号線を山に向かって登っていくと、工事中の中部縦貫道の下をくぐり登り切ると、耕作地が広がる所に出た、ここから国道 158 号線の上に架かる高架橋の進行状況が見られたが、まだ橋桁と 1 部橋が架かっている状態は 2 年前と変わらない状態でした。この辺りの工事が進むには、高架橋の先のトンネル工事が進む（貫通）してからかもしれない。岐阜県道 458 号線を市街地に向かって下っていき、宮川にかかる橋を渡



り万人橋西交差点（自宅から約 1 時間 45 分）を左折し古い町並みを目指しました。鍛冶橋交差点前で信号待ちになって周囲を見渡したら外国人のあまりにも多さに、高山散策をあきらめ、車で一周し古川に向かう事にしました。街並みを車からのぞきながら鍛冶橋交差点に戻って来て左折し、国道 472 号線（富山県射水市～岐阜県郡上八幡）まで直進し総合庁舎口交差点を右折して国道 472 号線を北上

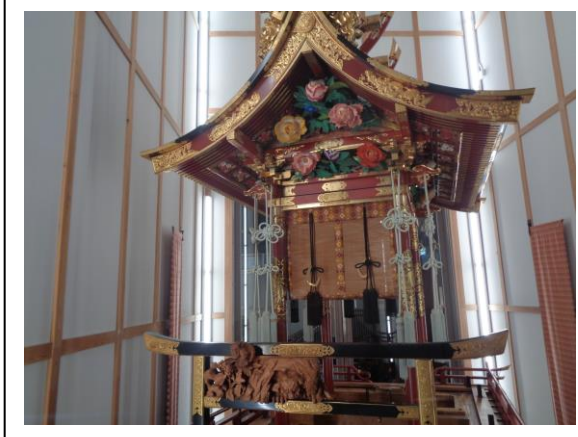
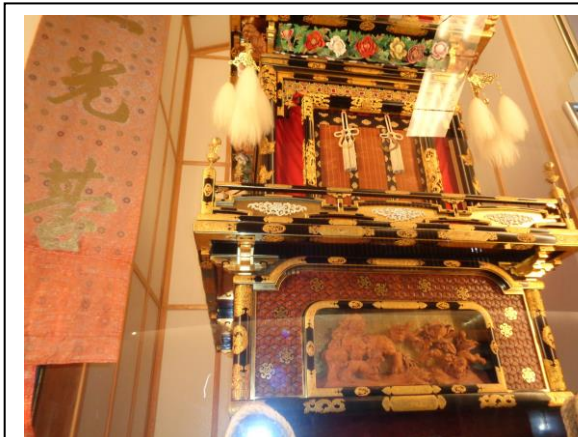


した。高山から「道の駅アルプ飛騨古川」まで25分程で着いて車を止めて食事をすることにした。元祖高山ラーメンの看板がある「老田屋製麺飛騨古川店」にて高山ラーメンを食べて休憩もした。

古川市街地に入り、「瀬戸川と白壁土蔵街」を探してみました。十数年前に来た時の記憶はあてにならず、とりあえず駅前の観光案内所に行って観光地図を手に入れました。古い町並みと和ろうそく店は見ることが出来ましたが細い川（瀬戸川）がわからず、市役所の無料駐車場に車を止めて「まつり会館」に行きました。「まつり会館」の見学は、高山・秩父について3つ目になります。

ユネスコ無形文化遺産・国重要無形民俗文化財『古川祭』が4月19日・20日、岐阜県飛騨市古川町の中心市街地において開催されます。古川祭は、気多若宮神社での厳かな神事に時代絵巻の「神輿行列」、そして絢爛豪華な「屋台行列」の“静”の行事とさらし姿の男たちがもみ合う勇壮な「起し太鼓」の“動”の行事で構成される伝統的な祭りです。「起し太鼓・屋台行事」はユネスコ無形文化遺産に登録され、また祭として国重要無形文化財にも指定されています。

屋台について、古川の屋台（やたい）は、神輿行列の露払いの役割を持ちます。明治時代までは実際に神輿行列の先導をしていましたが、大変な労力が必要なことから、現在は白屋台の名前を記した旗（大名旗）がそれに代わるものとなっています。古川の屋台は東西文化融合の結晶といわれており、江戸からもたらされた屋台が、飛騨の匠の技量によって高められ、京都のからくり人形が加わることで独自の形となりました。ここに塗師の技術や京都の金具、織物が用いられて、屋台芸術が花開くことになります。19日、9台の屋台はそれぞれの地域で曳行（えいこう）されます。明けて20日は、取決めた場所で屋台が曳き揃えられます。磨き上げられた漆や彫刻、木彫装飾など、技術の粋を極めた美しさは、“静”で情緒ある古川の町並みによく



似合います。辻々では青龍台、麒麟台のからくり、白虎台の子供歌舞伎の奉納があり、絢爛豪華な時代絵巻を展開。夜に行われる「夜祭」では、屋台が提灯を灯しながら曳行します。小さく揺れる提灯に照らし出された屋台は、日中とは違った表情を見せます。

まつり会館から近くの「飛騨の匠文化館」に移動し、建物は、木の国飛騨で育った木材を使い、飛騨の匠の技を受け継ぐ地元の大工たちによって建てられ、釘を1本も使っていないのが特徴。館内では各種の継ぎ手や木組みの見本展

示、のこぎり等の大工道具などがあっておもしろかった。

匠文化館を出てすぐに「瀬戸川の白壁土蔵」を発見し、十数年前の記憶が少しよみがえって来た。確かに狭い川であった。瀬戸川を歩き、途中から古い町並みの通りに移動した。

古い町並みは、車で通りを走った結果、結構広範囲に残っている感じがした。木の匠の建てた家には、説明によるとどの匠が建てたのが特徴（軒下には各大工さん固有の「雲」と呼ばれる腕木のささえである肘木に紋様が彫り



付けてある）を残してあるようでしたが、今度ゆっくり歩いて見るときに、見てみたいと思いました。酒蔵・渡辺酒造店＜蓬萊＞の横を通り、まつり会館のそばの店で「みたらしだんご」と「飛騨牛・串」を買って食べました。駐車場に戻り、国道 472 号線に戻りました。帰宅するに、高山方面から戻るか、神岡から奥飛騨温泉方面を回っていくか、ちょっと迷いましたが、右折して神岡方面に向かいました。

国道 472 号線とわかれ国道 471 号線（国道 41 号線と神岡まで重複）に入り、峠道になる。

改良された道は、長い登坂車線が 7km 程つづいており、登った所が数河高原となり、人家もある。数河峠を越えると神岡町に入り、下って行く道になった。スキー場もあり結構豪雪地帯に見えた。神岡市街に入り、街中を横切り、再び国道 471 号線（石川県羽咋市～岐阜県平湯）に出た。神岡鉱山は、亜鉛・鉛・銀・石灰鉱山で、奈良時代 720 年に開山し、2001 年に閉山をした。カミオカンデは、神岡鉱山跡地にあったニュートリノ観測装置。スーパーカミオカンデが完成し解体された。スーパーカミオカンデは、神岡鉱山茂住坑に建設された東京大学宇宙線研究所のニュートリノ観測装置である。一般の見学は出来ない。道の駅「スカイドーム」は、2～3 回寄った事がある。

国道 472 号線は、高原川（乗鞍岳の北側を水源）に沿っての道で、蒲田川との合流地点の奥飛騨温泉郷栃尾からは、右側（左側にいくと西穂高ロープウェイ）の谷を行くと、平湯温泉に到着した。途中焼岳が良く見える場所（写真右）があった。古川から平湯までは、1 時間 35 分かかりました。

平湯から安房トンネルを通り帰宅した。夕方 6 時頃には、家に到着した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.4.8

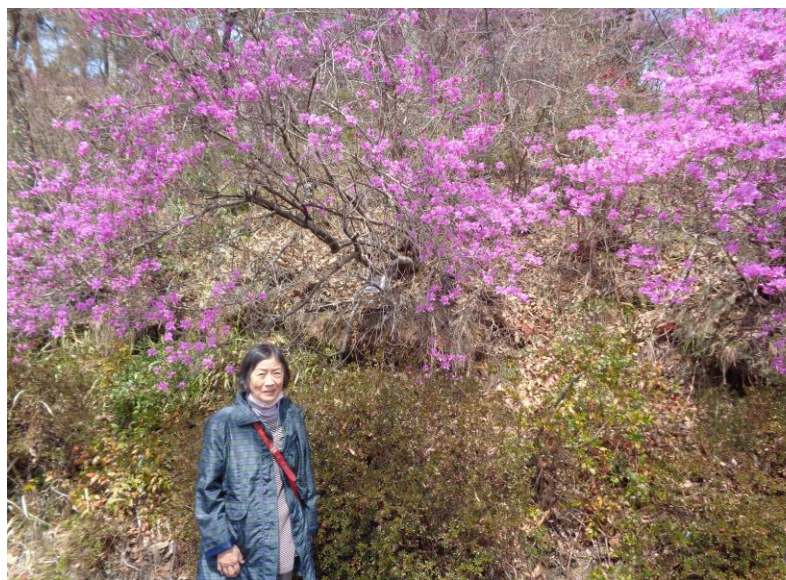
天竜峡の桜と県道 83 号線(下條村.阿南町.泰阜村.喬木村.飯田市)澤田 繁 著
(長野県道 83 号走破)

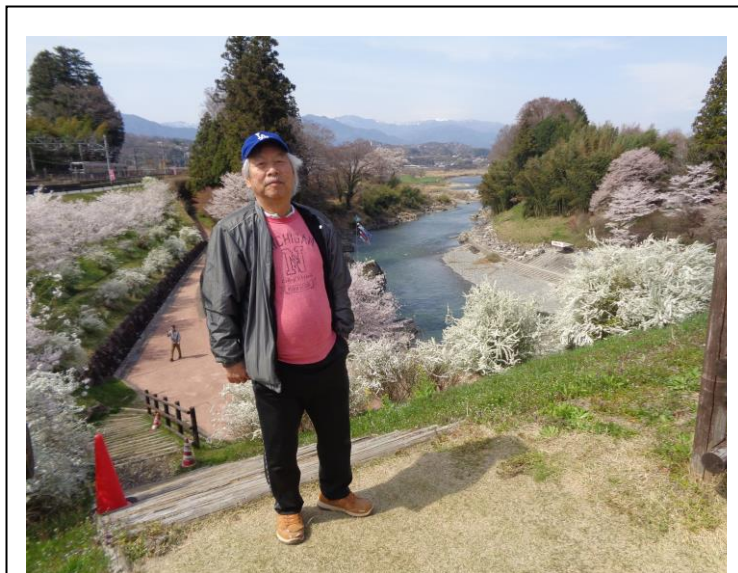
2025.4.8 高速道路の ETC 障害が解消された次の日、塩尻北インターで乗り、桜見物で降車予定の駒ヶ岳スマートインターを通り過ぎ飯田インターで降りました。飯田まで来たので天竜峡まで足を延ばして、桜を見に行く事にしました。少し寄り道し、飯田の「大宮通り桜並木」の桜(写真下)と「中央公園」の桜を見ました。見事満開の桜を車から見る事が出来ました。国道 151 号線に



出て、天竜峡を目指しました。

まずは、八重桜が多く遅咲きの天竜川左岸の「天竜峡八重桜街道」を通りましたが、まだ早くつぼみでしたが、対岸には満開の桜が土手沿いに見る事が出来ました。天竜川を渡ると、天竜峡駅が見え、少し手前を左折し天竜峡第一公園と第二公園の間にある駐車場まで行き車を止めた。駐車場のまわりにも満開の桜があり、ここから少し歩く事にした。この第一公園は小山になっていて、前に、ツツジの季節にこの小山の第一公園を散策したが、今回は元氣なく比較的平地を散策する事にした。駐車場のまわりには、早くも三つ葉つつじが咲いていて(写真下)きれいでした。これから花は、やまつつじへと移っていく、天竜峡駅方面に歩いていき、おなががすいていたので「辻本屋」





さんで、私は、馬刺しとソースかつ丼を食べて、元気をもらい天竜川近くに行きました。天竜川の船着き場である「天龍峡温泉港」が眼下に見える場所に行き、川沿いに咲く「満開の桜並木」を写真に撮り、さらに人道橋である「姑射橋」から天竜峡を見ました。駐車場に戻る途中「かたくり」の花が咲いているのを見て自宅より春の早さ感じました。

駐車場を出て、天竜峡駅近くに戻り、県道 492 号線を県道 1 号線まで進み、県道 1 号線できりあえず南下しました。三遠自動車道の千代インターを通り、旧千代村に入り、更に米川に



架かる千泰大橋（千代と泰阜）を渡り、泰阜村に入りました。県道 83 号線との交点までは、村境から数 km は 2 車線の道路であったが、交点手前 2km 程は、狭い道がまだ多く残っていた。

2021.5.17 天竜峡インターで高速を降りて、国道 151 号線を南下し、道の駅信濃路下條で休憩し、さらに南下し、下條村陽阜地区の県道 83 号（下条米川飯田線）の始点の三差路にきた。ここからしばらく集落と耕作地があるところを通り、国道 151 号線の橋脚の下を通る手前からは、山道になった。道幅は乗用車がやっとすれ違う事の出来る幅な部分が多く、時にはすれ違いが出来ない所もあった。151 号線の橋脚の下から 200m 程行くと、山道から谷間を走る天竜川までの下り道路となり、人家・耕作地も狭い谷間だがところどころあった。道も改良されている区間（2車線センターライン有）もあった。谷間道路の途中から下條村から阿南町に入り、天竜川を渡り泰阜村に入った。門島駅から天竜川左岸を泰阜ダムまで足を延ばし近くから見て来ました。門島駅から県道 83 号線は、県道 1 号線に出るまで、登り勾配で、ほとんどが狭い山腹を走る山道であった。県道 1 号線と重複区間の県道 83 号線を走った。途中の泰平トンネルは 232m で平成 14 年完成のトンネル（2 車線）。



2025.4.8 県道 1 号線を天竜峡の方から県道 83 号線との交点まで来たので、2021.5.18 に 83 号線を走った前述のつづきを走る事にした。県道 83 号線を泰阜役場方面に進む、泰阜村役場（今回は役場まで行った）が見えた所で、左折し県道 83 号線を進み、飯田市千代地域に入った。

泰阜村の道路は、山間地がほとんどで、谷あり山ありカーブありの起伏に富み過ぎた道であった。村内を走る 2 車線道路の完成に至るまでは、かなりの時間と労力が必要のようだ。昭和 57 年の県道 1 号線に架かる千泰大橋をはじめとし、平成 24 年に、北側道路として、泰阜役場から飯田市までは県道 1 号と村道を通る 2 車線道路が完成、南側道路として、役場から村境の温田までは、県道 83 号線と県道 1 号線を通る 2 車線道路が完成したようだ。村内を通る県道 1 号線は、全線 2 車線道路になるには、もう少し工事が必要のようだ。

千代市街に入り、市街地を U ターンする形で県道 83 号線が走っており、市街地の商店街には、「河鹿かえるの里」の表示があちこちに見えた。このかえる、清流の歌姫とも呼ばれ、とても美しい声で鳴く。和歌の題材になり、江戸時代には専用の籠（河鹿籠）による飼育がされたともある。千代市街から数分で「よこね田んぼ」に着き、棚田をみながら休息した。



飯田市上久堅地区にはいり、暫く行くと高速道路が見えてきました。高速道路下を通り、国道 256 号線をつ切り、この周辺を散策し(高速道・北田遺跡)、喬木村と飯田市下久堅を通り、県道 83 号線終点であるの弁天橋東交差点に到着した（県道 83 号走破）。この後、次回につづく。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.4.8

中川村から七久保(飯島町)まで

澤田 繁 著

(長野県道 218 号走破) (長野県道 219 号走破) (長野県道 220 号走破)

2025.4.8 前号のつづき、県道 18 号線を北上し、喬木村・豊丘村・松川町を通り、中川村に入った。桜の名所の「大草城址公園」の入り口を見過ごしたため、通り過ぎて 18 号線より右折したため、米澤酒造(今錦.かんてんぱグループ)の先まで行ってしまいました。多少のロスがあったが戻って「大草城址公園」に着きました。少し早いかと気をもんだ桜の花、結構咲いていたので花見に車を降りて散歩をしました。桜は城外にもあり、花の下でシートを敷いて楽しむにもよさそうな所でした。



「大草城址公園」を出てすぐ右折し、下りの道を県道 18 号線まで下り、左折し 100m 程で、県道 218 号線(北林飯島線)が始まる交差点に来ました。右折し県道 218 号線を走り始め、天竜川に架かる天の中川橋を渡り国道 153 号線に出ました。しばらく国道 153 号線と重複して走ると、昭和 33 年(1958 年)まで片桐村であった中心地にはいり、国道とは分岐し、河岸段丘をゆっくり登り始めると段丘の上に出た。ここから山際までは、ゆるやかな農耕地が広がっているところを走り、七久保駅そばを通り、県道 15 号線との交点である七久保駅入口交差点に到着(県道 218 号線走破)。駅手前(踏切手前)100m 地点で、空木岳かと思って写真を撮って来た。

昭和 31 年(1956 年)まで、七久保村であった地域は中央アルプス空木岳(百名山)に境界があり、それより

南、南駒ヶ岳・越百山・奥念丈岳に大桑村と境がある。合併した飯島町とは与田切川で境があった。

七久保駅に立ち寄り、駅周辺を散策し、中川村方面の山などを写真に撮ってから、県道 219 号線(七久保停車場線)をスタートした。すぐに終点の七久保小学校入口交差点に着いた(県道 219 号走破)。県道 15 号線を 200m 程はしり七久保



駅入口交差点から始まる県道 220 号線（千人塚公園線）に入りました。中央高速の下を通り、曲がりの多い山道を登ると耕作地があり、さらに進むと池が見えて来た。このあたりが千人塚公園でキャンプ地でもあるようだ。千人塚公園は、戦国時代には北山城という山城が付近にあり織田軍の侵攻により落城したため、その際に亡くなった兵士やその武具などはこの場所に埋葬されたという伝承があります。そのことから千人の塚、「千人塚」と呼ばれるようになったとされています。池より 200m 程進むと、県道 220 号線から飯島町道与田切線に変わる所があり（県道 220 号走破）、さらに奥に行く事にしました。



中央高速を走ると、「大田切川」・「中田切川」・「与田切川」と田切のつく川名が気になっていた。田切地形は、伊那地方では、天竜川の河岸段丘を横断するように激しく浸食して出来た地形で、結構段差があり、この段差を走る道路は、数 100m も上流に迂回するカーブをなしている。高速道路や主要道路は長い橋を架けて渡るようになって来ている。町道与田切線は、この田切地形をつくった上流に沿っているので、どんどころか走って見ました。右岸を走る町道は、川の 60m～80m 上を走っていたので山道でしたが、町道から林道横根山線に入り、発電所のある場所まで下って行き橋を渡る時に、川を見ることが出来ました。普通の上流の川（谷）のイメージでした。左岸に沿って下っていきましたが、時折川が見える川の上の道路でした。伊那中部広域農道に出て、駒ヶ岳スマートインターで高速に乗り帰宅した。

【付録】七久保地域からの南アルプスと中央アルプス。 右上：七久保駅から南アルプス

左上：踏切 100m 手前から中央アルプス

下：同上グーグルより



《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.4.22
富士見町散策して、最後に新旧の立場川橋梁を撮る

澤田 繁 著

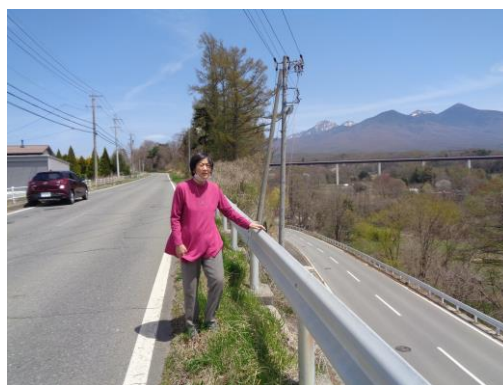
(長野県道 189 号走破) (長野県道 190 号走破) (長野県道 198 号走破)

2025.4.22 諏訪南インターで降り、国道 20 号線に出て、山梨方面に進み、富士見交番前交差点を左折し、県道 189 号線(中新田富士見線)に入り、中央本線の上を通り、右折し**思い出街道**を通り、県道 190 号線まで東に進みました。190 号線を使い富士見駅まで行きました。富士見駅前で車を降りたら、**なつかしい匂い**がしてふと見ると**なつかしい**「立ち食いそば店」があり、写真(駅舎の角)に撮りました。外から注文出来るが、待合室からの注文がメインのようだ。昔、駅ホームで食べた事を思い出しました。

富士見町は、昭和 30 年(1955 年)に誕生した町で、諏訪からの甲州街道沿いの**富士見村**と**落合村**に加え、八ヶ岳山麓の本郷村(乙事と立沢)と**境村**の 4 村が合併して出来た町。富士見駅は、富士見村と落合村の境にある。

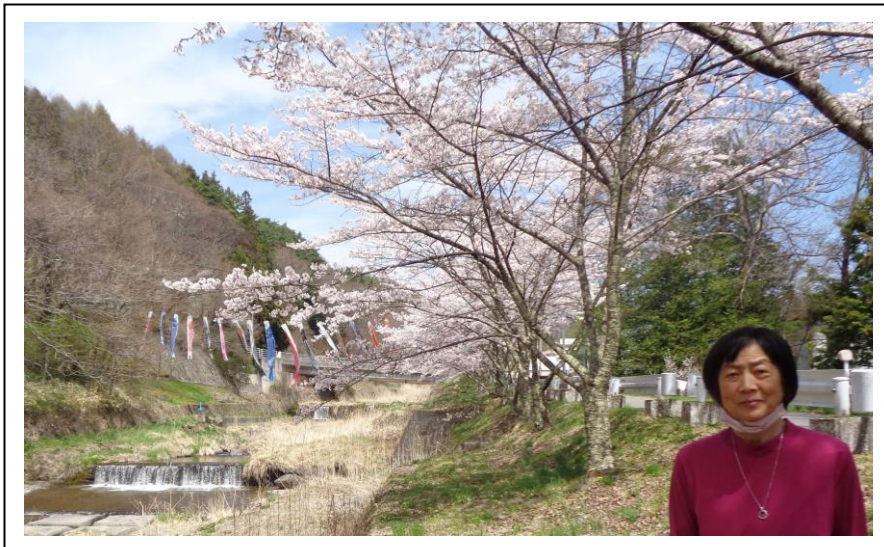
県道 189 号走破は、2021.12.28 山梨の昭和町にあるイオンモールに買い物をした帰りに小淵沢インターで降りて県道 17 号線を通り、富士見町と原村の境に近い、中新田の三差路交差点(県道 189 号終点)から県道 189 号線に入り、山麓を下り、富士見交番前交差点で国道 20 号線に出て、諏訪南インターから帰宅した時に走破した。

腹がすいて来たので、八ヶ岳山麓の「八ヶ岳カントリーキッ



チン」に食事をしに向かいました。富士見駅を出て、県道 190 号線(立沢富士見停車場線)を八ヶ岳に向かってゆるやかな登り道を進みました。立沢大橋手前で八ヶ岳と立沢大橋の写真を撮り、**立場川**に向かって降りていき、県道 17 号線との交点が見える所で川沿いの桜がきれいだったので左折し桜並木を走りました(県道 190 号走破)。

県道 17 号を少し走り、更に登って行き県道 484 号線に入り、山腹の気持ちのいい道をしばらく走ると目的のレストランに到着しました。レストランに入る前に、レストランの横



にあるパン屋さんに入り、釜をみながら、レストランに持ち込み出来るので、何を食べるか決めてな



かったので食事用にパンを買いました。レストランに行き、ランチセットを頼みました。サラダ・スープ・パン・メイン（魚）・プリン・コーヒー。買ったパンは、4個のうち2個を食べましたので、おなか一杯になってしまいました。外見から分かるように、ログハウスで左にはテラス席もあった。店内の飾りつけもカントリー風なものが多くあった。

食事も済ませたので、もう少し富士見町を散策する事にしました。富士見高原のペンションとテニスコートが道沿いに多くある所まで行き、そこから下り始め



ました。

県道 17 号線まで下り、県道 17 号線を山梨県方面に進みました。旧境村（田端・葛窪・先達・池袋・高森・小六新田）のしだれ桜を目当てに散策しました。田端のしだれ桜は、探すのに苦労しましたが、変わった建物（宿泊施設のよう）の上の丘にありましたが、散ってしまっって残念でした。

旧境村の散策はつづき、井戸尻遺跡を目指して町道を進み、狭い道も通り、古代はす（第 11 集 NO.76）が上から見える「井戸尻遺跡公園」に到着、縄文住居をながめながら、遺跡考古館・信濃境駅付近を通り、県道 17 号線まで登りました。県道 17 号線（今日は度々通る）を乙事まで進みました。

乙事^{おつこと}中心地の集落の内に、県道 17 号線から富士見駅まで行く県道 198 号線（乙事富士見線）



の三差路があり、直進するとそのまま県道 198 号線に入る。ここから下って行く道になり、高速道路の下を通り、旧落合村に入る。高速道路の橋げたが、威圧感があったので、ここで車を止めて、写真を撮った。立場川とその谷に架かる高速道路の橋であるが、結構立場川は荒れた川だったようだ。発車して少し下ると、左手に橋梁のような物が見えたので、県道 198 号線を走った後で行って見る事にした。この後すぐに富士見町の市街地に入り、午前に通った県道 190 号線と重複して、国道 20 号線の富士見交差点まで走った（県道 198 号線走破）。



国道を 2km 程行った所に、左に入る坂道があったので、左折し坂道を登り、富士見台の新興住宅を通り、新立場川橋梁の下に来了。新旧の橋梁下を通り、旧橋梁側から新旧の橋梁を見、立場川沿いの桜を見て、新橋梁下まで戻って来た。その後「道の駅こぶちざわ」まで行き休憩し、小淵沢インターから帰宅した。

立場川橋梁（たつばがわきょうりょう）、立場川橋梁は 2 代存在し、初代の旧橋梁はボルチモアトラス橋で 1904 年（明治 37 年）に開通し、1980 年（昭和 55 年）に運用を終了した。2 代目の現橋梁は、旧橋梁の南側を通る中央本線（現在線）に架かるプレストレスト・コンクリート橋で、1980 年に運用が始まった。旧橋梁は、明治時代の文化遺産である「一ノ戸川橋梁」と同じボルチモアトラス橋であり、1980 年（昭和 55 年）9 月 25 日に信濃境駅・富士見駅間の中央本線複線化による線路付け替えにより、本橋梁は廃橋となるが赤錆状態で現存している。1983 年に、国鉄から富士見町が周辺にある 2 つのトンネルと一緒に無償で譲り受けた。



2006 年（平成 18 年）、富士見町政モニターから「ボルトが落下して危険」と指摘を受け、町が調査を行った。近代的遺産として残す計画もあったことから、補正予算 330 万円でボルトと枕木を撤去した。2010 年（平成 22 年）、町文化財、近代化遺産に指定するかを検討してきた富士見町教育委員会は、「保存や修復・管理には定期的なメンテナンスが不可欠で、管理費は膨大。住民の安全安心な暮らしを冒してまでの指定はできない」と結論付け、指定は難しいとの考えを示した。町は、保存した場合の経費を 2～3 億円、解体の場合は 2,000 万円程度かかると予測している。富士見町の名取重治町長は、2024 年(令和 6 年)6 月 4 日に富士見町議会 6 月定例会での牛山吉彦議員からの一般質問に対する答弁で「保存という選択ではなく、最終的には撤去を検討することが現実的」と述べた。今後、専門家や大手ゼネコンなどと連携しつつ、撤去に向けた調査を進めるとしており、撤去時期は未定。

県道 198 号から立場川沿いに分かれる道路より、本橋梁が架かる富士見方の築堤に登ることができる。橋梁自体は立ち入り禁止となっているが、至近距離で見ることができる。宮崎駿監督のアニメーション映画『風立ちぬ』（2013 年）で、富士見高原病院へのシーンの遠景に、旧立場川橋梁が描かれている。2023 年公開の映画『怪物』の撮影場所に使用された。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.4.29

松本から大町に行くには、4本の道があるよ

澤田 繁 著

(長野県道 306 号旧道走破) (長野県道 306 号新道走破)

2025.4.29今日は火曜日(いつも県道走破に出かける曜日)だが旗日(昭和の日・旧天皇誕生日)と重なってしまいました。ゴールデンウィークでもあり、車の量が多く、渋滞箇所もあった1日だった。国道19号線の生坂村下生野から陸郷桜仙峡(次作に掲載予定)に行き池田町の県道275号線まで走り(この間車とすれ違い無)、**県道51号線**を突っ切り、池田町の運動施設のあるところを回って高瀬川沿いの堤防道に出て、**県道275号線**にまた入り、橋を渡り**県道306号新道**の上を通り**国道147号線**に出た。信濃松川駅前の信号を左折し**県道450号線**に入り、北アルプス山際を走る**県道306号旧道**まで行き、306号線を南下し、**県道25号線**とつないで、途中烏川橋手前に、花桃の花が咲いている通りを発見したので、右折したら、国営アルプスあずみの公園穂高口前に出て、整理員さんが交通整理をしていた。「チューリップ畑」がシーズンを迎えたようで、駐車場を見たら満杯にちかかった、これが**県道25号線**に戻って帰宅しようとした時に渋滞に巻き込まれてしまいました。花桃はなくなった道を更に進んだ。「穂高カントリークラブ」と「安曇野カントリークラブ」のゴルフ場、その先はホテルと別荘地で山もきつくなって、斜面の別荘地を見て、**県道25号線**に戻った。

安曇野ホテル下から前常念岳を写す



松本から大町に行く道は、4本あり、1本目は、高瀬川左岸にある**県道51号線**(第16集NO.106)を使うルートで、松本から国道19号線を塔ノ原(安曇野市明科)交差点まで行き、左折し大町市の旭町交差点まで。

2本目は、**国道147号線**を使うルートで、国道19号線の平瀬口交差点(三才山トンネルから上田



方面にいく時使う) から梓川を渡り、拾ヶ堰に沿って進み、拾ヶ堰橋北交差点を右折する。ここまでは、旧国道(国道 19 号線の新橋交差点)から来ても良い。松本から穂高までは、道沿いに家が並んでいる道であり、信号も多くあるので時間がかかる。穂高から大町までは、大糸線とほぼ平行して走っている。高瀬川を渡ると、右側に昭和電工があり、バイパスも完成して、旭町交差点から大町市街の西側を走って白馬方面に向かっている。又、穂高までの市街地を避けて、土場交差点までの広域農道が出来たが、この道にも店舗が多くなり、信号もあり、昔ほどの速さはなくなっている。

3 本目は、**県道 306 号旧道**を通るルートで、まずは、松本の波田地区を通る**県道 25 号線**を使い、北アルプスの山際を進み、国営アルプスあずみの公園の横を通り、昭和 29 年まで有明村(現在安曇野市)の一角には

いり、**県道 25 号沿線**には、ペンションや宿泊施設やそば屋等が多くある。周辺は、温泉が引ける別荘としてかなり前には話題になったところでもある。宮城交差点で**県道 25 号線**は、有明駅に向かうので、ここからは**県道 306 号線旧道**に乗り換える。**県道 306 号線旧道(大町有明線)**は、**2021.7.20**に大町から有明まで通して走っている路線であるが、有明から大町までを書いていきます。まずは、ペンションやそば屋のある有明地区を走り、中房川を渡ると、松川村に入る。ここからは農作地が沿線に多くなり周囲が良く見える道になる。



昔、何度か訪れた「とんぼ玉」の所は、大きな空き地になっていた。「すずむし荘」は健在であり、「ちひろ美術館」とその周辺は、発展しているようだ。ちひろ美術館の先にあるのが、「かぼちやま農場」の売店であり、初めて寄って見た(以前あったか記憶なし)。横にいちご園があったので、いちご買おう入りましたが、あいにく売り切れとのこと、いちご狩りの出来る所を発見した事にとどまりました。農場売店から 1.4 km 程行くと、左山際に野球場ネットらしき物が見えたので行って見ると結構りっぱな野球場であった。大町市に入り、国営公園入口交差点を通り、北上すると、大町市運動公園に行く道と木崎湖手前にいく道との分岐があり、**県道 306 号線**は大町運動公園の方に 90 度曲がる。運動公園を通り高瀬川を渡り、国道 147 号線を突っ切り、旧国道である**県道 474 号線**の市街地と交わる(**県道 306 号旧道走破**)。



松川村野球場から 1.4 km 程行くと、左山際に野球場ネットらしき物が見えたので行って見ると結構りっぱな野球場であった。大町市に入り、国営公園入口交差点を通り、北上すると、大町市運動公園に行く道と木崎湖手前にいく道との分岐があり、**県道 306 号線**は大町運動公園の方に 90 度曲がる。運動公園を通り高瀬川を渡り、国道 147 号線を突っ切り、旧国道である**県道 474 号線**の市街地と交わる(**県道 306 号旧道走破**)。

4 本目は、長野オリンピックに向けた道路で、**県道 306 号線(有明大町線)新道**を通るルートである。**2020.6.30**日を始め、大町に行く最短ルートとして、よく利用する道である。安曇野インターから、**県道 310 号線**を通り、重柳交差点からわさび街道を通過、高瀬川の右岸にでる。安曇橋南交差点からは、高瀬川右岸の堤防に設けられた**県道 306 号線新道**の道になり、現在は北アルプスパノラマ道路と言う名前がついている。安曇橋(県道 85 号・信号)⇒高瀬橋(県道 329 号・信号)⇒高瀬川大橋(県道 275 号・立体)⇒宮本橋(県道 334 号・立体)⇒上一北交差点(県道 306 号新道終点)となっていて、信号が始点・終点の 2 か所に加え、途中 1 か所のみの道である(**県道 306 号線新道走破**)。堤防道路の大町方面にいく左側は、田んぼが多く、北アルプスが良く見える道路となっている。途中にある「道の駅安曇野松川」「寄って停まつかわ」にはよく寄る。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.5.8

小説「安曇野」の穂高・堀金を散策

澤田 繁 著

(長野県道 307 号走破) (長野県道 308 号走破) (長野県道 309 号走破) (長野県道 432 号走破)

2025.5.8 まずは昼飯を食べに「ナポリピッツァ TASUKU」を目指しました。旧広域農道を北上し、住吉交差点（横にセブンイレブン安曇野住吉店がある）から約 1.1km 先の細い道を左折し 100m 程で着いた。ピザとパスタ等を食べて満腹になり、店を出た。堀金小学校と拾ヶ堰の間にある道で停車し、ふと穂高をはしるなら、小説「安曇野」の作者の記念館がこの辺にあるはずと思い、ナビで行く事にしました。まさにすぐそばでした。臼井吉見文学館は、受付をインターフォンで行い、すぐに職員が来て開けてくれ、ガイドまでしてくれました。小説「安曇野」は、私にとって、印象に残っている長編小説で、5 部とも購入し、最後まで読んだ小説です。安曇野市のネットからあらすじを探しました（以下）。

第 1 部、時は 1898（明治 31）年。宮城県仙台出身の相馬良（黒光）が、夫・相馬愛蔵の故郷の穂高（現・安曇野市）へ移り住んだ翌年から小説『安曇野』の物語は始まります。後に近代日本が誇る彫刻家として活躍する荻原守衛（碌山）と良の出会いや、国内外で活躍する人材を輩出した井口喜源治による私塾「研成義塾」創設のほか、若き日の木下尚江の活躍を描きます。自由民権運動の旗手として知られる松澤



求策（穂高出身）の生きざまや足尾銅山鉍毒問題など、この時代の政治や社会にも触れています。

第 2 部、主な舞台は、1901（明治 34）年に相馬愛蔵・良夫妻がパン屋「中村屋」を創業した東京へ移ります。相馬夫妻は、中村屋の更なる飛躍を目指して東京・新宿に支店を開設します。第 1 部、第 2 部の主人公ともいえる荻原碌山は、アメリカ・ニューヨークを経て、フランス・パリでオーギュスト・ロダン作「考える」を見て感動し、彫刻家を志すようになります。碌山は、パリから帰国した後、中村屋の近くにアトリエを構えました。相馬良への思いを募らせながら作品の制作に没頭。絶作となる《女》を完成させ、1910（明治 43）年に 30 歳という短い生涯を閉じた碌山の最期までを描きます。

第 3 部、時代は大正に入ります。本店となった東京・新宿の中村屋には、洋画家の中村彝や彫刻家の中原悌二郎をはじめとする芸術家のほ

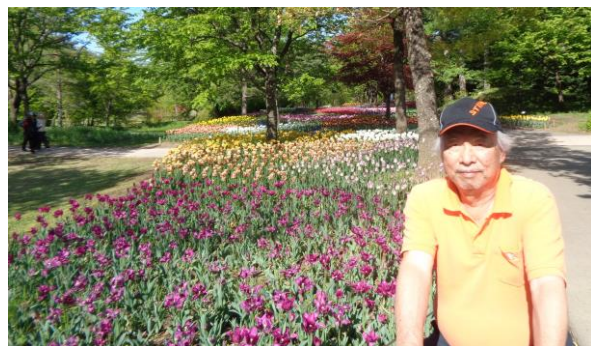


か、盲目のロシア詩人ワシリー・エロシェンコらが集うようになり、「中村屋サロン」ができあがりました。一方、インドの独立運動家ラス・ビハリ・ボースが 1915（大正 4）年に日本へ亡命し、中村屋が匿うことになります。中村屋とボースとの出会いにより、中村屋を代表する「純印度式カレー」ができあがります。第 3 部では、こうした立場や境遇の異なる多種多様な登場人物たちの群像劇が描かれます。

第 4 部、昭和初期に世界恐慌が始まり、満州事変や日中戦争といった戦時体制に移行する中、1937（昭和 12）年に社会運動家・作家の木下尚江、翌年には教育者の井口喜源治と、第 1 部から活躍してきた物語の主要人物がそれぞれ生涯を閉じます。喜源治の死去により私塾「研成義塾」も 30 年余の歴史に終止符を打ちます。1945（昭和 20）年の東京大空襲で、中村屋の本店のほか、工場などが消失。太平洋戦争の終戦とともに第 4 部は幕を閉じます。小説『安曇野』の作者、臼井吉見が編集長を勤めた筑摩書房は、この第 4 部の時代に創業しました。

第 5 部、太平洋戦争終戦後、再出発した中村屋は、苦難のうちにも発展してきます。店を次代へ引き継いだ相馬愛蔵は 1954（昭和 29）年に死去。後を追うように相馬良も翌年に亡くなり、主要人物 5 人は全員物語を去ります。一方、作者の臼井吉見自身が登場人物の一人として物語の中に現れ、小説『安曇野』の重要なテーマともいえる天皇制や戦争責任について触れていきます。そして、ある人物が碌山美術館を訪れると…。

文学館を後にして、アルプス安曇野公園にチューリップを見に行き、県道 25 号線を北上し、旧堀金村から旧西穂高村（柏原・牧）に入り、昭和 29 年まで有明村であった地域に入り、しゃくなげ荘まで来ました。その先の交差点が県道 308 号線（小岩岳穂高停車場線）の始点であり、左折して旧しゃくなげ荘（更地になっていた）等を見て、交差点に戻って来た。ここから穂高駅に向かってゆるやかな下りの道を降りていき、烏川の架かる富田橋を渡り始めると右側に拾ヶ堰の出口が見え、この



の長さを感じた。渡ると昭和 29 年の合併前の穂高町に入り、大糸線の踏切を渡り、終点の穂高駅に到着した（県道 308 号線走破）。

穂高駅から県道 309 号線を通り「井口喜源治記念館」（写真次ページ右上）前を通り、国道 147 号線を 500 m 走り県道 85 号線に入り明科方面に向かう。松本―穂高間の鉄道が開業したのが大正 4 年の事、明治 34 年に明科駅（信越線回り）が開業した。明治時代までは穂高から東京へは、明科駅からの利用しかなかった。県道 85 号線の安曇橋南交差点の 200m 手前の交差点を左



折すると県道 307 号線（下木戸有明停車場線）に入る。田んぼが多い道を走ると、走る方向に「爺が岳」が正面に見え、種まき爺さんも見る事が出来た。途中、県道沿いに高橋節郎

（漆芸家）の生家の所に、美術館があり、前に近代的な建物、後ろに古い建物があり、一度来た事がある、国道 147 号線に出る手前は、集落の狭い道であった。国道 147 号線を 50m 走ると有明駅に着く、現在 307 号線は、バイパスが進んでいるので、駅より 400m 程北にいき、右折し、バイパスを走ると、バイパス沿いに会社が複数建っている所を通り、田んぼだけの道の途中で切れている（県道 307 号線走破）。県道 85 号線に戻り、県道 317 号線を経由し穂高駅まで戻った。

穂高駅前交差点から県道 432 号（柏原穂高線・観光常念線）に入り、常念岳に向かい進み、旧広域農道に出た所で、この先工事中通行止めだったので、旧広域農道を南下し、県道 309 号線（塚原穂高停車場線）に入り、常念・蝶ヶ岳（写真右端が常念岳）に近づきながら進み、県道 25 号線と交わり、県道 25 号線を通り帰宅した。

2021.12.7 東山魁夷特別展（唐招提寺の襖絵）を見に、県道 25 号線から、烏川橋交差点から県道 432 号線に入り、松林に囲まれた権現宮マレットゴルフ場横を通り、かなり緩やかな下り道を、穂高神社・穂高駅前まで行き、そこから 19 号線に出て長野に行った（県道 432 号線走破）



2020.5.10 アルプスあずみの公園から小川村に行く途中、県道 25 号線の塚原交差点より県道 309 号線に入り、柏矢町駅に向かう。緩やかな下り道は県道 432 号線と同じで、山を背にして旧西穂高村地区（柏原）を走って柏矢町駅に着く。ここから穂高駅までは、旧国道を通して「コの字」のように走った（県道 309 号走破）。旧国道沿いから東に 400m の間に、小説「安曇野」の相馬良（黒光）・相馬愛蔵・荻原守衛（碌山）・井口喜源治のゆかりの所が多い。別の日に、矢原地区を走ったが、狭い道が多く、万水川を渡る橋を探しているうちに、相馬愛蔵の生家である、洋館の建物には行きつかなかった。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.5.13

祭りが松本地域にもいろいろあります

澤田 繁 著

2025.4.30、NO.141 号で古川祭りを書きましたが、地元にもいろいろな祭りがありました。そのなかで舞台(関東)／山車・だんじり(関西)に関する所を5か所探しました。それを中心に思いつくまま7か所を書いて見ました。第2弾も考えていますので、祭りの情報をお願いします。

①松本天神祭り：7月24・25日に行われ、氏子町内、松本平に夏の到来をつげる祭りとして親しまれ、神輿(市重要文化財)と舞台(市重要有形民俗文化財)の出る華麗な祭りとして広く知られています。

天神祭の舞台、深志神社の古伝によれば、元和元年(1615)小笠原忠真公が大阪の陣の戦勝帰陣に際し、南深志十三ヶ町産子(産すな神をまつる同じ地域の人)に命じ山車舞台を造らせ社前に曳き入れて各々舞人をして奏楽せしめ、神輿二基、神官騎馬にて奉行警護し南深志を渡御された、と伝えられています。戦国の世が終わり、平和の時代の訪れとともに天神まつりと神輿・舞台行事が始まりました。舞台の名称が文書に現れる最も古い記録は元禄五年(1692)とされます。三百年以上にわたり舞台は天神まつりに曳かれてきました。もちろん当時の舞台は残っていません。どんな



姿をしていたのでしょうか。現在の舞台は代を重ね、町ごとに競い張り合って十六台の舞台が綺羅を競うこととなりました。平成13年には松本市の重要有形民俗文化財に指定され、城下町松本の代表的文化財と評価を高めております。現在市からの援助を受けて古く傷んだ舞台の改修が進み、今年も二台の舞台が美しい姿



で甦りました。舞台は24日早朝曳き出されて各町に置かれます。そして深志神社で宵祭りが斎行される夕刻、お囃子の音とともに境内に曳き込まれ十六台が社前に並びます。この懐かしい祭り姿は、いつまでも続けていきたい昔ながらの松本の風物詩です。

天神祭の神輿巡幸、二基の神輿は、25日にお注連のひきめぐらされた氏子町内を一基は担がれ、一基は自動車にてめぐり、神幸されます。神輿渡御は時代とともに形を変えつつ、地元の神輿会「松深會」、氏子により、伝統を守り続けられています。

深志神社は、私の小学校区域にあり、旧市民会館が隣にあり、池や広場もあり、よく遊びに行った所でもある。私の町の神社は、縣宮神社で4月がお祭りで、祭りには町中に紙垂をつけた注連縄を張り、参道には屋台が並び、境内には芝居のステージがあった記憶があるが、何十年もお詣りに行っていない。県町南には、施設の移転先のように、旧制松本高等学校の設立のため、縣宮が現場所に大正7年に移転された。そのため、縣宮の祭りには、寮として旧制松本高等学校の敷

地内に建てられた「思誠寮」の学生が、くりだしお詣りに来る習慣になっていたが、小学生の頃から一度も遭遇していない。施設の移転として源池小学校と松商学園があった。実家の祭りよりは、大規模な隣の地区祭りが、筑摩神社祭り（実家のすぐ前）と深志神社の天神祭りであった。



深志神社には、私の七五三と娘の七五三を行った場所でもあり、神様（神社）もいくつも祀られているので、八坂神社の「八坂様」には、何年も「のぼり」を持ってお詣りに行った。

②阿禮神社の例大祭（別名塩尻祭）：毎年7月の第二日曜日とその前日の土曜日に行われる。阿礼神社例大祭の見どころは、7地区に1台ずつある豪華絢爛な舞台（山車）です。舞台は、**棧敷、宮本、堀ノ内、中町、室町、上町、長畝**の各地区にあります。舞台の上には町の若い男性が乗り、「おんべ」と呼ばれるさいはらい（大きなはたき）を勢い良く振り回して町中を曳き廻します。町のいろいろなところで行われる、「落合い」という舞台を向かい合わせてのお囃子を奏でます。

舞台曳行は、7地区の舞台が、それぞれ特徴のあるお囃子を奏でながら、神社を目指して曳き廻されます。舞台の上では、若い衆が「おんべ」と呼ばれる大きなはたきを振り回し、威勢の良い掛け声を響かせます。舞台曳行は、夜8時半、先頭の棧敷の山車が神社境内へ入り、この後15分間隔で長畝・堀ノ内・宮本町・中町・室町・上町の順で境内へ入って行きました。境内に入って山車が向かうのは拝殿。ここで本囃子を奉納します。榊を神社に納め、宮司さんが祝詞をあげます。その間氏子さんたちは目を瞑り、祈祷します。七つの舞台で一斉に本囃子を奉納し、十一時に万歳三唱で祭りは幕を閉じます。



③小坂諏訪神社：例大祭は、現在9月の第3または第5土曜日に行われる。となっております。山形村小坂諏訪神社とは天正13年に、諏訪大社上社より分霊された由緒ある神



社であると今に伝えられています。以来、小坂の守り神として三柱の神を祀るようになりました。祭りの山車は舞殿と呼んでおり、上大池・中大池・小坂にそれぞれあり、地区内を曳行し、神社にむかい急坂やカーブの難所もあり、約 3 時間かけて神社に入り、境内に入る見せ場では太鼓の連打に合わせて勢いよく舞殿を動かす。上大池の舞殿には立川流（宮大工大隅派の分派で江戸と諏訪に分かれて活躍）彫刻が施されている。

④須々岐水神社のお船祭り：5 月 4・5 日におこなわれる須々岐水(すすきがわ)神社のお船祭は、4 日のお船作りから始まります。船倉から出した木造二階造りのお船に、舵棒を左右につけ、横木をはめて、ひきだすようにします。お船の前後にはめた木枠に、色彩や図柄のある幕を船のようにはりめぐらします。「大和をあげる」といって、お船を午前8時頃から、横笛と大太鼓と小太鼓にチャンチャンで囃(はや)し、そのうち上金井がレンボの祭り囃子(ばやし)で出発します。お船の曳き方は、梃子(てこ)棒を持った若い衆が、左右の一对の車輪を梃子で動かします。お船の二階に立つ若い衆が、4 名で「よいさ、ほいさ」のかけ声で手を振ります。お船の前後の梃棒に十数人ずつの若い衆がつき、青海原を左右にゆらせながら蛇行して進みます。教育文化センター前の道路に、待機している薄(すすき)町のお船の後に、湯の原と新井と下金井のお船が続き、さらに荒町と西荒町のお船が曳行(えいこう)されます。集まったお船の後に、上金井と藤井と兎川寺(とせんじ)が続き午前 10 時まで勢ぞろいします。勢ぞろいしたお船が、午前 11



時までに神社の鳥居前まで進みます。境内を蛇行して進み拝殿の脇から順にとめ休憩します。午後の浦安の舞が終わると、弊束(へいそく)をつけて輿(こし)に乗った御神馬像を神主がお祓いします。その後、年番の町会の若い衆の掛け声で御神馬像を担って、神主の家まで運びます。その後に薄町のお船から拝殿前に進み、船首を正面にしてお祓いを受けます。お祓いがすむと、薄町が祇園囃子(ぎおんばやし)のトーハリコとヒトツトヤを、荒町が花車囃子を囃すなどして、町会ごとに祭り囃子を奉納します。拝殿前のお船のことが終わると、お船ごとにキリバヤシとよぶ祭り囃子を囃して境内を出て、お船の帰りは、帰り囃子やばかばか囃子を囃して帰路につき解散します。

須々岐水神社は、里山辺地区にあり、私の実家の県町南と西小松（里山辺）と接している。実家から西小松までは500m、神社までは3.5 km程の距離にある神社です。

⑤松本市和田神社例大祭：和田神社は、旧和田村の村社です。和田神社の現在の本殿造営については史料が残されており、寛政12年(1800年)に名工・立川和四郎（立川流・諏訪拠点）富棟の一番弟子小松七兵衛によって造営されたことがわかっています。例祭は、9月の第2週の土日（？）2023年は9・10日、2024年は7・8日に行われた。和田地区内の7町会より煌びやかな舞台が曳航される。実際には見た事がないが、ユーチューブで見る限り、境内に舞台が入る様は、ラッパ等の鳴り物がうるさいくらいだ。



⑥村井の長持ち行列：毎年4月第3週（2025年は4月20日（日））に行われる神明宮大祭に合わせ3基の長持による長持行列を村井町各地区からスタート、一日かけて町を巡行し神明宮に奉納します。毎年1月から長持の竿用の桧の切り出し、切り出した桧の皮むきと形成作業、おんべの色染と作成、長持の飾りつけ、衣装の準備、当日の長持巡行と続きます。



長持ちは、掛け声や歌とともに「長い竿を利用して上下に揺らしながらの行列」ゆらす度にギュ・ギュと音がする。村井の他、広丘にも存在しているようだが、村井長持会が30年程前に出来て、今も長持ち行列が行われている。

⑦筑摩神社の例祭：例祭は、毎年8月10日に行われる。筑摩神社は、延暦13年（794年）に創建され、室町以後は小笠原氏の祖神として崇敬された。例祭での夏の花火大会は、大賑わいをする。私が小学生頃（1960年前後）の話ではあるが、神社は実家の前、薄川の対岸100mの所にあり、遊び場の一つでもあった。お祭りには、親戚を招待したりしていた。家の前の薄川の川原では、職場の集団が何組も宴会を行っていた。仕掛け花火も川原にあり、花火で飾られた宣伝の文字が点火すると浮かびあがった。昼間祭りの行事として、船神輿が2台で、境内の周りを競争するのを、目を丸くして見た。船神輿は、10m以上あり、30人近くの人で担がれていた、何周かの争いかはわからなかったが、連続して進む事が出来ず、休む時に相手が先にいかないように横にして休む等、決着には時間がかかっていた。今となっては、勇壮しすぎて、存続できない行事であったと思う。 次回祭り：波田（舞殿）・浅間温泉（松明・火祭り）・・・。